

第一編 昭和七年度運動方針

中央執行委員會

一、世界資本主義の状況

一、死滅しつつある資本主義即ち獨占の支配を確立せる帝國主義の段階にある世界資本主義の第三期を特徴づける世界恐慌は黨の第一回大會後、さらに新たな深淵へ没入した。恐慌の新たな發展は國家財政の危機と金融恐慌の二つの局面を鋭く刻みつけたのである。

イギリス、ドイツ、アメリカその他の諸國を騒がせた赤字問題は國家財政の基礎を揺るがすところの危機の標識であつたが、之れは資本家のための支出、戦争を準備するための支出と、一般大衆の國費負擔力の劣悪化に基く歳入との不均等によつてもたらせられた。

ウイーンにおこつたオーストリアの銀行破産は、イギリスを襲ひ次いでアメリカ、ドイツ、日本の帝國主義強國を金融恐慌のなかに捲き込んだが、イギリスの金本位制の停止によつて、金を媒介とする國際的連鎖は世界的動搖を呼び、之れがため諸強國の金融恐慌はさらに深まつた。

金が一方的に集中されて金のあふまるフランスの労働者の生活は一般と低下しアメリカの労働者は、釣瓶棒ちに賃銀の切り下げと大量的失業を強制されてゐる。

かゝるなかにソヴェート・ロシアは世界恐慌をよそに社會主義産業の建設事業の完成を急ぎつつある。ロシアの建設材料の購入は、世界資本主義の生産市場を賑やかせ、其の商品の輸出は、消費市場を脅威しつつある。

二、恐慌が永引き深まるにつれて、世界資本主義の一般的危機はひろがつた。危機は獨占資本を中心とする資本運動の波打つ波動のなかから激生されていつたが、その第一は諸國家間の發達の不均等、第二は生産と市場の矛盾、第三は諸強國間の政治